

2017-B

VI46B

拠出金・基金
の名称

国際農業研究協議グループ拠出金/アフリカ稲センター(AfricaRice)

種 別

イヤマークのみ 一部イヤマーク

【拠出先の国際機関名】国際農業研究協議グループ(CGIAR)/アフリカ稲センター(AfricaRice)

【所管官庁担当局課・室名】

農林水産省大臣官房国際部海外投資・協カグループ/国際機構グループ

【当該任意拠出金の目的・用途等】

アフリカ稲センターはCGIARに属する研究機関であり、アフリカの貧困削減と食料安全保障に貢献するため、持続可能な形で米の生産性と収益性を増大する技術の研究、開発、普及を行う国際機関。

当該拠出金により、現地に適した水稻栽培技術を実証・普及し、西アフリカ4か国(リベリア、シエラレオネ、ベナン、トーゴ)の米の中長期的生産性向上を支援。

【最近3年間の我が国支払額及びODA率】

単 位	邦 貨 (千 円)	外貨1 (千米ドル)	外貨2 (千)	レ ー ト	ODA率(%)
平成29年度	32,721	297	-	1米ドル=110円	100
平成28年度	36,688	306	-	1米ドル=120円	100
平成27年度	47,089	428	-	1米ドル=110円	100

【当該任意拠出金等の意義、成果等に関する我が国としての評価】

リベリア及びシエラレオネでは、事業実施期間の5年間で実証実験を行う圃場を新たに複数設置し、農民参加型の実証実験、技術者の育成等を実施することとしており、平成29年度には圃場の設置、技術者及び農業者へのOJT研修、技術の実証試験等を行った。

トーゴ及びベナンでは事業実施期間の5年間で、技術実証圃場を拠点として本事業の手法を用いた稲作技術体系の周囲への普及・定着を促進することとしており、平成29年度には、マニュアルの完成及び配布、農業者への研修、本事業のこれまでの成果の新聞への掲載等を行った。

これらの成果は、水田稲作に関する新技術の普及を通じ、米の収量増加と安定性を促進するものであり、アフリカの米の中長期的生産性向上に貢献していると評価できるため、我が国が拠出する意義は大きい。

【備考】